

山梨県固有のデザインソースの集積と 「山梨らしさ」を付加価値とした製品等の開発に関する研究(R3～R5)

産業技術センター、産業技術総合研究所、山梨大学、県立博物館、県立文学館

背景・目的

【県政の課題】

山梨ブランドの
価値向上

【課題解決に必要な考え方】



地域資源と地域の個性の
相乗作用が必要

【課題解決の方向性】

地域資源情報の集積
と新たな発想を生み
出すための基盤づくり

消費者に「山梨らしさ」
を想起させる要素の
解明

地域の技術・素材を活用した新たな名産となりうる製品の開発

【研究目的】

・地域資源情報の掘り起こし、データ化
・デザインデータベース
YAMANASHI DESIGN ARCHIVE
の拡充

・付加価値を生むローカリティ要素
(山梨らしさ)の解明

・「山梨らしさ」を織り込んだ新たな
地場製品の試作開発

【研究項目】

- ① デザイン資源の掘り起こし・データ化(産技セ・文学館)
- ② 郷土民俗資料群「甲州文庫」からの洗い出し・データ化(博物館)
- ③ デザインデータベースの改修(産技セ)

- ① 人文科学面からの分析(博物館・文学館・産技セ)
- ② 感性工学による分析(山梨大学・産技セ)
- ③ 深層学習による分析(産総研・産技セ)

① 食に関するプロダクト

② 衣に関するプロダクト

進捗状況

各参画機関の連携により、概ね予定どおりに進行している。

1年次

2年次

3年次

① デザイン資源の掘り起こし・データ化	取材～データ化(随時実施)		
② 「甲州文庫」からの洗い出し・データ化	デザイン資源の洗い出し～データ化(随時実施)		
③ デザインデータベースの改修	関係課との協議・認可	システム改修作業	運用・調整
① 人文科学面からの分析	山梨を紐解く「切り口」の設定	ディスカッション・資料調査・研究会	まとめ
② 感性工学による分析	検討・準備	第一回調査	第二回調査(検討中) → 詳細分析～視覚化 → まとめ
③ 深層学習による分析	転移学習	半教師あり学習	アプリ化検討
① 食に関するプロダクト	企業巡回	製品企画	製品試作 → まとめ
② 衣に関するプロダクト	企業巡回	製品企画	製品試作 → まとめ

今後の展開

引き続き研究参画機関との連携により着実に研究を進め、成果創出を目指す。

- デザイン資源の掘り起こし : 取材～データ化を進行/山梨フォント策定プロジェクトへの寄与
- 郷土民俗資料群からの洗い出し: デザイン資源の洗い出し～データ化を進行
- デザインデータベースの改修 : システム改修を進行し、R4年度内の完成を目指す(運用開始、発表時期・方法等は協議)
- 「山梨らしさの解明」
 - ・人文科学面 : 「閉鎖性(境界意識)」を切り口に、本県の歴史・文化・民俗について分析を進め、本県独自の気質などを言語化する
 - ・感性工学面 : 詳細分析を進め、イメージ構造を視覚化する/山梨フォント策定プロジェクトへの寄与/第二回調査の実施検討
 - ・深層学習面 : 因子得点を元に半教師あり学習を進行し、「山梨らしさ」を画像より判別・評価するシステムを構築する
- プロダクト開発: 2名の客員研究員と共同し、さらに地場の技術・素材・人材の把握を進めるとともに、新たな地場製品の企画～デザイン～試作を進行する